



行政の『箱』から、
現場の『中身』へ

三宅小学校教頭 森 亮介

次世代型校務支援システムを
『攻略』しない——
GWSで創る『一つの世界』

制度やインフラではなく、「**現場の教職員の感情と変化**」にフォーカスする

本発表は、現場の教職員の視点と「**自校のデータ**」に基づくリアルな現在地です。

行政の『箱』
(制度・インフラ)

現場の『**中身**』
(感情と変化)



データが示す真実：新システムの評価は「GWSの活用度」に比例する

2026年度 校内教職員アンケート結果より



二重入力のパ撲滅と「紙ありき」からの脱却

二重入力のパ撲滅



GWS側で一度作れば終わり

紙ありきからの脱却



システムを紙の書式に合わせない。
紙で読みたい人は個人のご自由 (印刷) で割り切る。

学校業務は「GWS内ですべて完結」できる

実は、工場や病院と違い、情報の処理がメインである学校は、クラウド化が極めて容易な『特権的』な環境にある。

他業界（金融・医療・製造・ITなど）



金融・税理士



医療機関



製造業



IT開発

フルクラウド化は困難
または超複雑高額

学校



GWS内で利用

現場のリアル：境界防御は紙ありきの思想

1

デジタルの二重入力：
あっちに入力して、また
こっちにも...

2

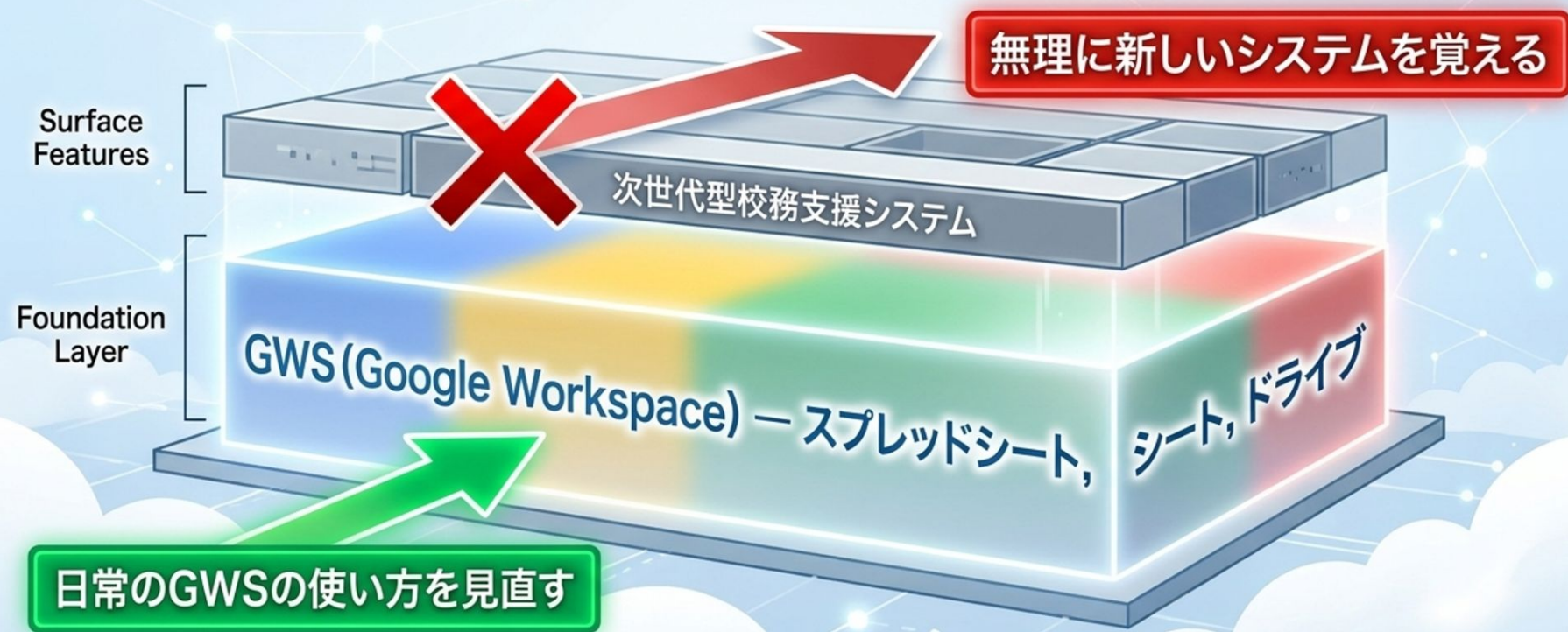
ちぐはぐなシステム：
コンセンツの形に合わせるような苦勞。
無理やりシステムに適應させている状態

デジタルの二重入力：
あっちに入力して、
またこっちにも...

現場を疲弊させているのは「システム」
ではなく、「仕組み」の欠如です。
壁は常に"紙ありき"の思考から生まれます。

結論：新しい操作の習得ではなく、『GWSへの親和性』が成否を分ける

校務支援システムへの「慣れ」よりも、ベースとなるクラウド環境への「親和性」こそが、すべての変化を受け入れる土台となる。



なぜ、クラウドは理解されにくいのか？

物理的な「手作業の模倣（コピーを渡す）」から、
目に見えない「概念（同じ場所を見に行く）」への転換が必要だから。

手作業の模倣



物理的なコピーを渡す

概念への転換



同じ場所を見に行く（共有）

GWSで創る『一つの世界』: 便利さから自然とクラウドに慣れる環境



鉄則: ローカルへのダウンロード/アップロードを禁止し、全てクラウド上で完結させる。

『二重入力』を撲滅する

データはGWSで「一度」作るだけ。あとは参照と共有で完結させる。

BEFORE

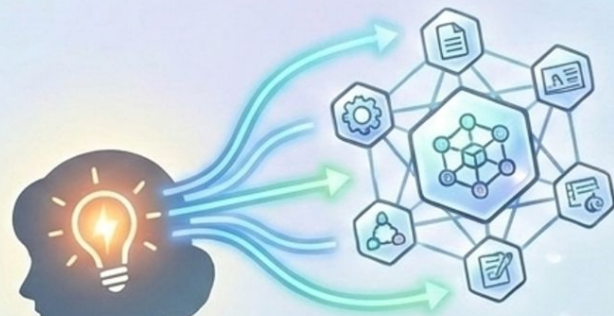
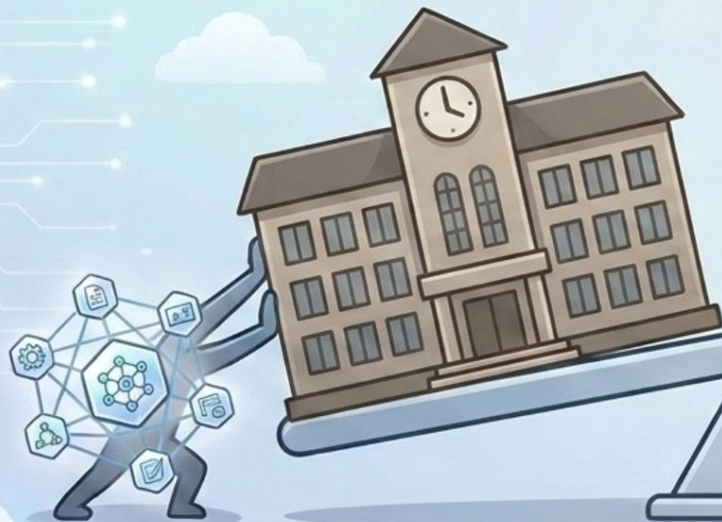


AFTER



マインドの更新：システムではなく『自分の使い方』を時代に合わせる

ツールが学校を変える



教員のマインドが
ツールの価値を変える



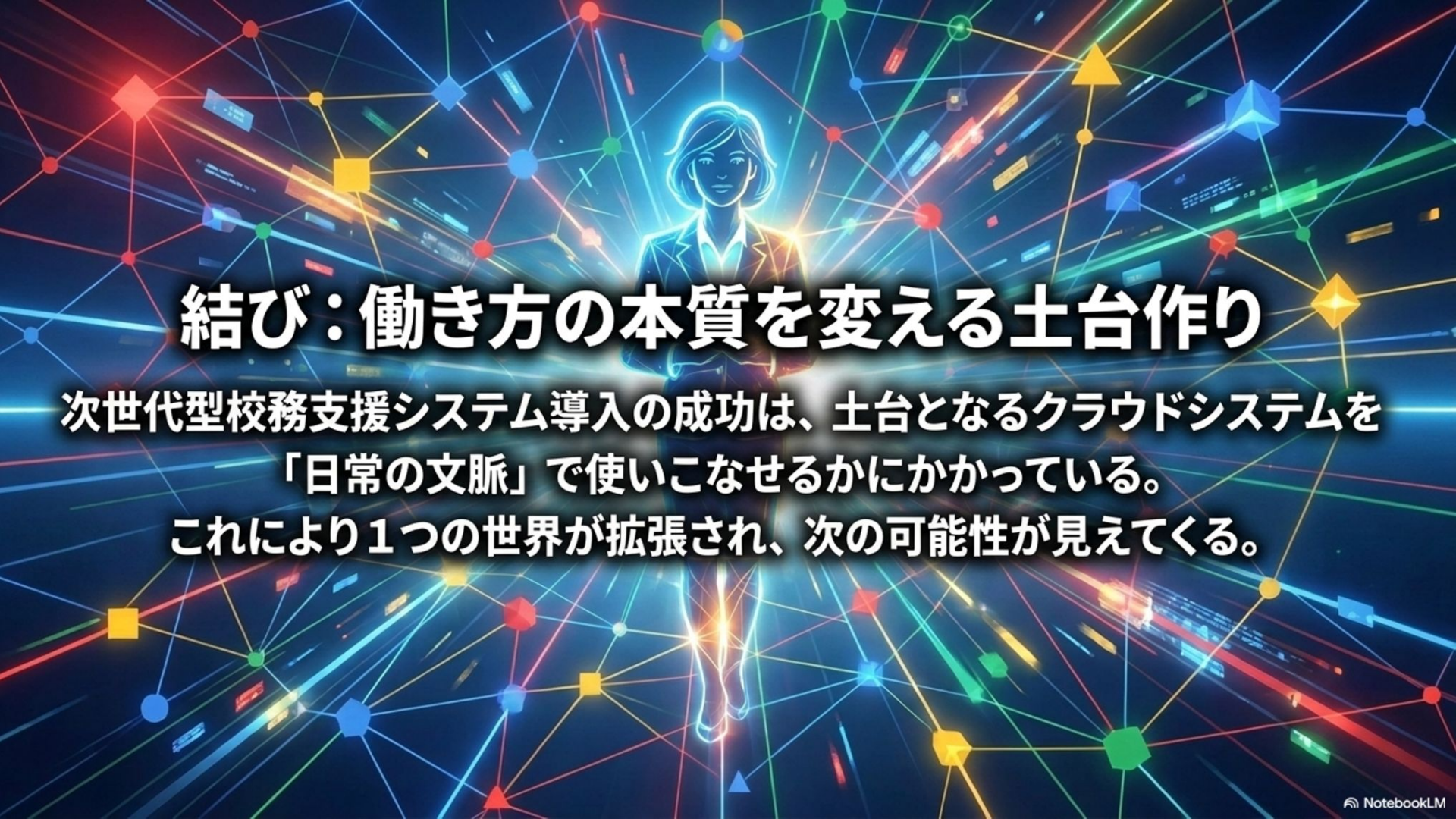
日本の場合、このシステム
さえ使えば完璧！
とはならない。



周りがやらないから、
やらないのではない。
時代は逆方向には進まない。



できる範囲、できるメンバーから
「小さな変化」の波及を起こす。



結び：働き方の本質を変える土台作り

次世代型校務支援システム導入の成功は、土台となるクラウドシステムを
「日常の文脈」で使いこなせるかにかかっている。
これにより1つの世界が拡張され、次の可能性が見えてくる。